

心電図でしかわからない不整脈・心電図だけではわからない虚血性心疾患　～循環器学会の各ガイドラインにおける心電図の意義～

保健師・栄養士資料

| ガイド ライン | 刺激伝導系：不整脈 | 血管（冠動脈）：虚血 | | |
|-----------------|--|---|--|--|
| | | | | |
| 心電図でわかること | <p>❶心電図検査は、病歴、身体所見などと並び最も重要な検査と認識されており、<u>不整脈の検出</u>のみならず、リスクの評価にも活用されている。</p> <p>❷心房細動の診断には心電図が必須である。</p> | <p>❶心電図は冠動脈病変の診断で最初に行われる基本となる検査法である。</p> <p>❷虚血性心疾患の診断において心筋虚血や梗塞の部位や程度を評価するのに有用であり各種不整脈の出現も診断的価値を持つ。</p> <p>❸心電図はほとんどの医療施設で施行可能な安価な検査法であり、簡便かつ繰り返し記録することが可能。</p> <p>❹急性冠症候群の分類、診断においては心電図が中心的役割を果たし、リスク評価や治療効果の判定にも重要。 経時的に心電図を記録することで臨床的意義は向上することが多い。</p> | <p>❶冠動脈疾患の日常診療において、心電図は最も簡便かつ基本となる診断検査法である。狭心症状を有する患者や狭心症発作時には心電図を記録する。</p> | <p>❶急性冠症候群では発症早期の迅速かつ的確な診断が求められる。診断技術が進歩した現在でも、心電図は非侵襲的に簡便かつ迅速に行うことができる基本的な診断検査法である。</p> <p>❷心電図は診断のみならず重症度評価や治療方針の決定において中心的な役割を担い、予後予測にも重要な情報を提供する。</p> <p>❸初回心電図に異常が認められないという理由で急性冠症候群を除外することはできない。</p> <p>❹1回の記録だけで判断せず、比較することで診断精度は向上する。</p> |
| でわからないこと 心電図 | | <p>❶心電図は万能ではなく狭心症患者では非発作時には心電図変化を認めないことも多い。</p> <p>❷心電図波形は患者の体型、胸郭の相違なども影響することもある。</p> | <p>❶心筋虚血の診断には、主にST－T変化が用いられる。しかし、心電図のST－T部分は心肥大、心室内伝導障害、心筋疾患、電解質異常、ジギタリスなどの薬剤使用、自律神経緊張などさまざまな病態でも変化する。これらの変化と心筋虚血の鑑別はしばしば困難であり、病歴や臨床所見、他の検査と合わせて総合的に診断する必要がある。</p> <p>❷安定狭心症患者では、非発作時の心電図は正常所見を示すことがあり、安静時心電図所見が正常であっても冠動脈疾患は除外できない。</p> | <p>❶非発作時には心電図が正常な場合も少なくなく、発症後早期にはまだ心電図変化が明らかでないこともある。この様な場合でも、以前の記録や時間をあけて記録した心電図と比べると変化が明らかになる例は少なくない。</p> |